

2018年10月1日発行

NPO法人 RGS 協会発行 編集人 堀内孝之 〒146-0094 東京都大田区東矢口 2-18-17 ●TEL 03-3757-3389 ●FAX 03-5482-8827

平凡な日常の彩り

アニエス 晶子

私はピアノを弾いて暮らしています、華やかな歌手の方の裏方としての伴奏をし、伴奏家業として楽しく日々を過ごしております。

そんな私が「何か書いて」と頼まれ、書くこととなりましたが、どんな事を書いたらよいのでしょうか。何を書きましょう。とにかく私の日常を書いてみました。

「おはよう」と言っただけ、きちんと三食べて、「おやすみ」と言っただけ眠る日々が大好きです。朝起きてから夜寝るまでの間に素敵な音楽を聴いたり、好きな人たちと会って楽しい時間を過ごせれば幸せです。

ピアノを弾いて暮らしているものの、アーティスト気質としては程遠いようですけれどね。そんな中にチョッピリ彩りを添えてくれるのがシャンソニエで、私にとって贅沢で素敵なところですよ。

を持たず聴いていて、サウンドとして楽しめるものでした。しかしシャンソンの日本語の歌詞は、私にとっても単なるサウンドではないので、意味合い深くて、そんなところに魅了されながら毎日弾いています。フランス語で歌われるシャンソンも大好きです。

この度ご縁があつてこちらに書かせていただきました。ご縁は大切にしています。自ら何かを切り開いたりする事のない、ある意味自主性のない私ですけれど、ご縁のあつた事にはワクワクしながらチャレンジして、与えられた環境の中でハッピーにすごしています。ご縁に感謝。

(筆者はピアニスト)



▲アニエス 晶子さん

もともとクラシックバレエ伴奏のお仕事をしたり、ジャズのライブハウスで弾いていました。ジャズブオーカルは意味



朝顔

この歌に出会って

小西 智子

ある日、原先生と二人でコンサートで演奏する曲の合わせをしている時に、先生が「こんな歌知ってる？」と、この歌を聴かせてくださいました。

原先生は時々こうして色々な歌を私に聴かせてくださるのですが、ウエスタン調ののんびりとした音楽と歌詞とが不思議と調和して、目を閉じて聴いていると、この歌がそつと寄り添って優しい気持ちにさせてくれるような素敵な歌でした。私が普段オブリガートをつけている原先生の歌と少し雰囲気異なる歌だったので、初めて聴いた時、とても印象に残ったのです。



▲小西智子さん

この歌を聴いていると、日々の喧騒から離れ、田舎の景色を眺めているようなゆつたりとした気持ちになります。時にはこの歌のように力を抜いて、穏やかな気持ちで外を歩いてみたり、人と接したりすることができたらいいな...と思いつつながら聴いておりました。

原先生はよく、「人との出会いを大切にね」「人生は良い思い出作りのためにあるんだよ」と仰いますが、そんな心の温かい先生のお人柄を随所に感じるこのでてる歌です。私はヴァイオリン奏者なので歌詞というものを持ちませんが、原先生の歌とご一緒していると、日

本語の歌詞を持つ「言葉の力」を強く感じ、そしてその力は人の心を動かす素晴らしいものだなといつも感じるので、いつか原先生と一緒にこの歌をコンサートでも演奏して、たくさんの人に届けたいなと思います。

川はいつも流れる

作詞／熊沢菊戸
作曲／原 莊介
編曲／香登みのる

川はいつも流れる
人はいつも流れる
俺たちの青春も
いつのまにやら
汗と涙で過ぎてゆく
汗と涙で過ぎてゆく
川はいつも流れる
人はいつも流れる
つらい別れもあったけど
いつのまにやら
流れ流されて 生きてゆく
流れ流されて 生きてゆく
流れ流されて 生きてゆく



左の写真は、日本でも見かけるロートレックの描いた
 アリステイド・ブリュアンのポスターだそう。彼は
 歌手であるが、飲食店を開いたり、本を出したり、選挙
 に出たり、反権力のポーズをとったり、多岐にわたり活
 躍しようだが、シャンソン界では一つの型を作ったと
 も言える。庶民の味方のようなのだが、晩年は保守的地主の
 典型で終わっている。

一八五一年五月六日、パリ南東100キロのクルトネ
 で生まれている。子供の頃より歌が上手だったと言わ
 れているが、父の死で裕福で地主だった家が没落、一
 家でパリに移っている。宝石店などの丁稚になるが、
 一八七〇年普仏戦争の時、クルトネに戻り義勇兵になっ
 ている。



一八七四年、鉄道会社で発送業務の仕事に就く。昼は
 会社勤め、夜にはモンマルトルのクラブで歌う。その唄
 いぶりで人気歌手になったと言う。一八八〇年に徴兵さ
 れ兵役に就くが、このとき作った連隊歌が軍隊中で唄
 われたとの事だ。除隊

後は歌手に専念し、カ
 フェ・コンセルに出
 演、一躍人気者になっ
 ている。一九二五年二
 月一〇日、パリで亡く
 なった。(T・H記)

シャンソン名訳・迷訳

裏切りと背中合わせの愛を唱ったジャン・サブロンの名曲。briserは「壊す、砕く」という意味なので、曲名を「夢をこわさないで」とした。

Il ne faut pas briser un rêve

Couplets Recitatif

- Depuis le jour où je vous aime,
 Mon cœur est sans espoir...
 Malgré votre sourire même,
 Tout est las, triste et noir...
 Pourtant un jour dans un baiser...
 Vous m'avez promis de m'aimer...

Refrain

Il ne faut pas briser un rêve,
 Même s'il vous semble un peu fou
 Tâchez donc que le mien s'achève,
 Puisqu'il est plein de vous...
 Déjà, me blottissant dans vos bras,
 Je sens que votre étreinte me ment...
 Il ne faut pas briser un rêve
 Même s'il vous semble un peu fou...
 Tâchez donc que le mien s'achève,
 Puisqu'il est plein de vous...

Couplets Recitati

- Mais en amour, comm dans la vie...
 Il ne faut rien prévoir...
 Car tout s'efface, tout s'oublie...
 Malgré nos désespoir...
 Votre cœur peut souffrire un jour
 Au souvenir de notre amour

Refrain

夢をこわさないで

星野亮 直訳

クープレ繰り返し

- あなたに会ったあの日から
 私の心に希望はない
 あなたの微笑を見てさえも
 すべて疲れ果て、悲しくそして暗闇
 でも或る日、接吻の時
 あなたは誓った、私を愛すると、

〈ルフラン〉

夢はこわしてはならないもの
 たとえあなたにとって愚かしくみえても
 努めてほしい、私の夢がかなえられるように
 あなたのことで一杯になっている夢だから
 ああ、早くも、あなたの腕の中に抱きすくめられながら
 私は感じる、あなたの抱擁が私を裏切ることを
 夢はこわしてはならないもの
 たとえあなたにとって愚かしくみえても
 努めてほしい、私の夢がかなえられるように
 あなたのことで一杯になっている夢だから

クープレ繰り返し

- でも愛においても人生と同じように
 何事も予見することは出来ない
 すべては消え去り、忘れ去られるものだから、
 私たちの絶望にも拘わらず、
 いつの日かあなたの心も苦しむでしょう
 私達の愛の思い出に。

〈ルフラン〉 1 と同じ

大宮市 **ビストロ アンジュール**



このお店には、ピアノのあいあいさん、アコーデオンのるっちゃん、山本先生の企画によるライブで伺いました。JR大宮駅の一つ手前、さいたま新都心駅より三分、ここにレストランがあると、ここにレストランがあると思わないような所にある。隠れ家のようなレストランです。

和室を洋風に改装した店内のミニシャンデリアが私の目に映りました。それに和風作りのお庭は木々の緑がとてもすてきです。月に数回催しを行っているそうです。美味しい食事を楽しみながら、この素敵なレストランでひと時をお過ごしください。
(シャンソン歌手 岩崎桃子 記)



▲和風造りの雰囲気、素晴らしい環境。



▲店内のシャンデリアが目を惹く。

ビストロ アンジュール

〒330-0843
さいたま市大宮区吉敷町 4-248-11
TEL 048-856-9497
月曜定休
火曜～土曜：11時30分～15時
18時～22時
日曜 ランチ 11時30分～15時
※パーティープランご相談ください。



CHANSON RGSシャンソン研究会発行

発売中 **日本生まれのシャンソン I**

CD・カラオケ付き 定価 2000円 送料300円



- 2019 ドール「日本生まれのシャンソン I を歌う会 2019」は2019年3月開催予定
- 「日本生まれのシャンソン」ホームページ <http://rgschanson.com>